

## 私と看護

看護師の仕事とはなんだろう。患者様の病気を治すことはできない。痛みを取り除くこともできない。私が行う腹部マッサージに一体どれだけの効果があるのだろうか……。あまりの無力さに、私は必要なのか、という思いに押し潰されてしまいそうな気がした。

そんな私の考えを変えたのは初めての実習での出来事だった。実習で出会ったその患者様の全身状態はあまり良くなく、入院期間も長いとのことだった。人工呼吸器と経鼻経管のチューブに繋がれ、意識もはっきりしない患者様に担当の看護師さんは笑顔で声をかけていた。毎日面会に訪れている奥さんにもねぎらいの言葉をかけ、その看護師さんは部屋を後にした。

「学生さんですよ。見てほしい物があるの」そう言って、奥さんが引き出しから取り出したのはスクラップブックのような本だった。中には絵の描かれた沢山のテープが、綺麗に大切そうに貼られていた。

「お父さんの鼻のチューブにね、看護師さんが絵を描いたテープを毎日貼ってくれるの。この前のクリスマスにはサンタの絵。夏には浮き輪とスイカの絵。皆さんのおかげでこの本も3冊目になりました。これを見ているとお父さんと一緒にもっと頑張ろうって思えるの。」

目に涙を浮かべながら笑顔で見せてくれた奥さんを見て、私も涙をこらえきれなかった。1枚1枚のテープには患者様のことを思いながら描いた看護師さんの優しさや、移りゆく季節を共に過ごした患者様、家族の思い出が詰まっているように思えた。なんて温かな看護なのだろうと私は心から感動した。

家族にとって、大切な人である患者様が闘病する姿を見ることは大変辛いことであろう。返ってくる言葉のない旦那様に声をかけ続けて不安で仕方なくなることもあるだろう。患者様を支える家族は、患者様の大きな支えとなる。その家族を支える役割も看護師の重要な仕事のひとつであると感じた。一人で闘っているのではない、と心に寄り添うのが看護のような気がした。

医師のように手術によって病気を治すことはできない。しかし私には、手術を控え、不安な患者様の手を握り、思いを聞くことができる。薬剤師のように薬で痛みをとることはできない。しかし私には患者様の背中をさすり、共に痛みを耐えることができる。看護師を志し、看護学生になれたことは私の大きな誇りである。日々学び続け、一生医療に携わりたいと考えている。看護師にしかできない仕事、そして、私にしかできない看護をすることが私の将来の夢である。患者、家族、そして私自身も笑顔になれるような看護、それが私の理想とする看護である。